

神の救いの計画の終末のシナリオ

◆詩篇を理解する上で私たちが知っておくべき基礎的な知識があります。それは、神の救いの計画における終末の出来事の一つ、すなわち、キリストの再臨によって実現する千年王国の栄光のヴィジョンです。そこではエルサレムは、世界の霊的な中心地となり、世界中の人々が王の王であるキリストを礼拝するためにエルサレムに上って来ます。そしてシオンから主の教えが出るのです。詩篇には、しばしば、こうしたメシアによる千年王国の栄光のヴィジョンが啓示されているのです。このことを念頭に置きながら詩篇を読むなら、神の救いの完成に対する終末への期待は、ますます膨らんでくると信じます。

◆「千年王国の栄光のヴィジョン」は、突然のキリストの再臨によって、反キリストの勢力—反キリストの呼びかけによって終結した地上の諸軍隊—が打ち滅ぼされ、王の王であるキリストが聖徒たちと共に千年間地上の世界を支配する時代が実現するのです。その間、サタンは底知れぬ所に幽閉され、その活動を封じられています。

◆神の救いの計画は、〔終末の時代〕を経て、ついに完成の時を迎えます。この終末は、具体的には、＜携拳＞と言われる聖徒たちのよみがえりという出来事によって始まります。そして、七年間の人類史上最大の＜患難時代＞が続きます。この患難時代の終わりに世界最終戦争といわれる＜ハルマゲドンの戦い＞が始まり、人類、特に、神の選びの民であるユダヤ人は滅亡の危機に直面します。そこへキリストは＜再臨＞し、キリストの支配する＜千年王国＞が出現するのです。その後、一時サタンは解かれ、最後の反抗を試みますが、滅亡します。そして、ついに全能の神の力により、＜最後の審判＞が行なわれ、永遠の御国にふさわしい＜新天新地＞が創造されます。

◆世界は今や、この終末の時に向かって秒読みの段階にあるのです。

1. 携挙

◆すでに主にあって死んだ聖徒がよみがえり、生きている聖徒たちは瞬間的に朽ちないからだに換えられ、天に引き上げられて空中で主と会います。

2. 患難時代(前期3年半)

◆反キリストが出現し世界統一(経済統制)がなされます。この時期に神殿が復活します。

3. 患難時代(後期3年半)

◆ユダヤ人絶滅の危機が訪れます。ユダヤ人の民族的回心が起こります。反キリストの呼びかけによるハルマゲドンの世界最終戦争が起こります。

4. キリストの再臨

◆突然キリストが再臨します。携挙の時に天に上げられたすべての聖徒たちもキリストに従ってきます。患難時代の殉教者たちも加わって「小羊の婚宴」がなされます。

5. 千年王国

◆王の王キリストによる千年間支配の王国が出現します。エルサレムは世界の霊的支配の中心地となり、すべての民が神を礼拝しにエルサレムに来るようになります。

6. サタンの最後の反抗と滅亡

◆千年間幽閉されていたサタンは解き放たれますが、先に反キリストと偽預言者が入っている火と硫黄の池に投げ込まれて滅ぼされます。彼らは、昼も夜も永遠に苦しみます。

7. 最後の審判

◆大きな白い座が設けられ、死人のすべて復活し、神のさばきを受けます。その時、いのちの書に名が記されていない者は、第二の死として火の池に投げ込まれます。死も永遠に滅ぼされます。

8. 新天新地の創造

◆全く新しい秩序によって再創造がなされます。そして新しいエルサレムが出現します。